

きょうどうのまちづくりNEWS

平成17年12月27日（発行：企画課協働推進スタッフ）

12月21日(水)職員会館におきまして、きょうどうのまちづくり研修会が行われました。研修では、まちづくり活動を実践している市民の方、4名にお越しいただき、実際にどういった取組みを行っているか、活動の中で見えてきた課題、まちづくりに向けた協働のあり方などについて、幅広く意見が交わされました。今回は、その中身についてお伝えします。

きょうどうのまちづくり研修会が開催されました！

12月21日(水)午前10時より職員会館において、「きょうどうのまちづくり研修会」が行われました。

この研修会は、6月に策定された「公民協働推進の指針」に基づき、協働意識の醸成を図るために開催されました。

今回は4名の市民の方より、まちづくり事例の紹介が行われ、その後、松端克文(桃山学院大学社会学部助教授)先生をコーディネーターに迎え、シンポジウム形式で行われました。

研修会には、協働推進員をはじめ、およそ50名近くの職員が参加しました。



事例紹介

ゆう葛城 <村瀬 雅恵(むらせ まさえ)さん>

ゆう葛城は、葛城町で活動しているボランティアグループ(小地域ネットワーク活動)です。葛城町は高齢化が急速に進んでおり、坂の多い町でお年寄りが生活しにくい町です。そんな中、平成12年6月に住みよいまちづくりのために自主的に発足したのが“ゆう葛城”で、「お世話する相手がどうしてもらったら嬉しいか」を基本に活動しています。ゆう葛城の事業は、各種サロン活動(子育てサロン、シネマサロン、はなまる喫茶など)と助け合い活動に大きく分かれており、ゆうネットの取組みは助け合い活動に分類されます。

ゆうネットでは、住民誰もが“してもらいたいこと”“できること”を登録しており、誰もが依頼者であり、協力者です(お互い様の関係)。依頼する際には、“ありがとうチケット”を介してサービス(デイサービスへの送迎、お買い物、電球交換、洋服の手直し、パソコン指導など)を行います。

サービスの間に、雑談を交わすことによりコミュニケーションが深くなっていきます。

ゆうネットでは「地域のみんなで支えあう」ことを基本に、「住みよい街づくり」「仲良しになること」を目的にまちづくりを進めています。そのためには 人と出会い、顔見知りになり、時間を共有することが大切です。**まちづくりを進めていくには、スタッフも参加者も同じ立場で参加し、無理の無い範囲で行っていくことが大切です。そして何よりも楽しい気持ちで取り組むことです。楽しい気持ちは他の人にも広がって行きます！**



地球温暖化防止市民協議会 <昼馬 光一(ひるま こういち)さん>

地球温暖化防止市民協議会は、4年前に環境省の地球温暖化防止に向けた取組みを受けて設立されました。現在は15人の会員があり、非常に熱心に活動しています。活動の内容は、環境家計簿(家庭の光熱費を毎月記入し、前月と比較し、意識啓発を図っていくもの)の普及に取り組んでいます。

環境家計簿については、環境保全課を通じて、市職員の皆様にもご協力いただいているところですが、無理の無い範囲でご協力いただければと思います。



環境家計簿です。



協議会では、地球温暖化を考えていくうちに、「いったい岸和田市の気温はどれ位なのかなあ」ということになり、きしわだ環境市民会議、小学校の協力も得て、7月25日に市内の一斉気温測定を行いました。今年は210人近くの協力をいただいたが、来年は1000人を目標に頑張っていきたいです。

市民活動を続けていくコツは“できることから、できるところで”ということだと思います。職員の方も地域へ帰れば、一市民です。できることから無理なく始めていただけたらと思います。

町家“光輪庵”代表<吉野 裕子(よしの やすこ)さん>

光輪庵は、本町の紀州街道沿いに建っています。江戸時代の旧家を改修したもので、現在はギャラリー、音楽会、会議など様々なイベントで利用されています。

本町地区では、まちづくりに向けて平成6年に“本町のまちづくりを考える会”を設立し、どういったまちづくりができるかをみんなで考えています。そんな中から「何か楽しいイベントを」という意見が出てきて、“紀州街道にぎわい市”が開催されています。



光輪庵の様子

私のモットーは「健康でないとまちづくりはできない」ということです。そんなことから裏庭の“元気農園”で無農薬野菜を育て、販売している。今では多くの方が朝市に来てくれています。

今後、光輪庵が文化芸術発信の場、地域交流の場になればいいなあとと思っています。



大芝まちづくりプレーヤー<西出 秋雄(にしで あきお)さん>

大芝地区で花いっぱい活動、美化活動など、たくさんのボランティア活動をサポートしています。また最近では地区の人から「防災をしたい」という声があり「じゃあ、やったらいいやん」という感じで防災部会を立ち上げ、防災マップづくりに励んでいます。子どもの居場所づくり、子育てサークル活動も学校や公民館で進行中です。また環境問題への取組みを考え、家庭から出る生ごみの堆肥化も行っています。花・野菜を育てているグループの畑に堆肥を使用したりしています。

私がこれまでの活動で感じたことは、町の役員は2年で変わってしまい、変わるによりまちづくりの思いが断たれてしまうということです。いくら思っても終わってしまう。そんな思いから平成9年に“大芝まちづくり委員会”を作りました。継続することが大事だとつくづく思います。

私がまちづくりに参加したのは、都市計画マスタープラン作りに参加したことがきっかけです。マスタープランを策定する際に、都市計画課の担当された職員の方が非常に熱心で「こんな職員も居るんやなあ」と感動しました。そんなことがあったからこそ、今の自分が居ると思っています。出会う人が本当に大事だなあと本当にそう思います。



シンポジウム

コーディネーター：松端 克文さん(桃山学院大学社会学部助教授)

パネリスト：村瀬雅恵さん、昼馬光一さん、吉野裕子さん、西出秋雄さん

地域活動の中で、感じたことは、発見したことは、

村瀬)・いろいろな人との出会いにより、人の新たな才能(料理、手芸など)を発見したこと。

・多様な年代の人と関わりが持てるようになったこと。

昼馬)・「これから何でもやれる」と感じたこと。

・これからもまちづくり活動を広げていきたい。

・課題があっても、目標に向かって前向きな話し合いができるので、そんなに重くは感じていません。

・諦めるとそこで終わってしまう。諦めないことが大事。

吉野)・人との出会いの大切さ、人には様々な才能がある。

・光輪庵も私も周りの人に支えられてきて、今がある。そういった出会いがあるからこそ、素直に感謝できるし、毎日が幸せ。

・困っていることは、情報発信が上手くできていないこと。岸和田でもあまり知られていないので、これからいかに情報発信をしていくかが課題。

西出)・参加料金(受益者負担)の問題。会の運営費も参加者みんなで賄えればと思っている。

・補助金などは当てにせず、楽しく、大切だから継続すると言うことが大事。

・今の人はグループに帰属することが苦手な人が多い。それなら好きな人同士が集まって、好きなことを通じて地域活動に関わってもらえればと考えている。好きなことで地域を引っ張っていく、好きなことを行い、つながっていく。多様性を認めながら、行うことが大切。

村瀬)・補助金の考え方については西出さんと若干異なります。サロン参加費は実費のみで、印刷代などの会の運営費をボランティアが賄っていくのは難しい。そういう点から補助金を運営費に充てているので非常に役立っている。

・ゆう葛城は町会組織とは別であり、町会からの費用もないが、町会との連携は必要と考えています。

・子ども会、青年団といった地域団体との連携も必要です。連携の仕方、方向性については今後の課題。

協働の観点から意見があれば、

西出)・職員の人にも正面から関わってもらいたい。お互い向き合ったら分かり合えるはず。

・職員の人には個々の活動をコーディネートしたり、理論付けなどのサポートをしてもらえればありがたい。

吉野)・自分からやりたいと思うことを一緒にやってくれれば嬉しい。

昼馬)・市民も職員も腹を割って話す事が基本であり、大切。

村瀬)・私たちゆう葛城の活動が、隙間を埋める存在になればと思っています。

まとめ(松端)

・村瀬さんも言っていたように、やさしさ・楽しさは伝染します。

・本日話してくれた皆さんも、無理なく、楽しく行っています。それ自体がまちづくりの基本。

・職員の方も一市民の立場で、今何ができるのかを考えて欲しい。それが協働の始まりです。



今回の研修は、まちづくり実践者から岸和田で行われている事例を紹介してもらい、協働によるまちづくりを考えました。今後もこういった研修を通じて、協働を身近に感じ、市民と行政によるまちづくりを考える機会を持ちたいと思います。是非ご参加下さい。